

平成30年度事業報告書

I 会務報告

1. 会員の状況について

	正 会 員	準 会 員	合 計
今期末会員数	2, 8 8 2名	0名	2, 8 8 2名
前年度末会員数	2, 8 7 3名	0名	2, 8 7 3名
増 減	9名	0名	9名

支部別会員数は、添付諸表資料1のとおり。

2. 賛助会員について

1) 団体等

北海道農業共済組合連合会	500,000 円
北海道農業協同組合中央会	100,000 円
ホクレン農業協同組合連合会	350,000 円
(一社) ジェネティクス北海道	100,000 円
(株) 高橋動物病院	100,000 円
酪畜支援センター	100,000 円
(株) 札幌夜間動物病院	200,000 円
(有) 士別動物病院	50,000 円

2) 個人

なし

3. 名誉会員の推薦について

該当なし

4. 役職員の異動について

1) 役員

平成30年6月20日、第6回定時代議員会において横山敦志理事辞任による役員補欠選任が行われ、斉藤聡氏（胆振支部）が選任され、同日就任した。

2) 職員

平成30年9月30日 森 清一（参与）退職

5. 日本獣医師会特別委員会委員、職域別部会委員会委員（本会分）

1) 特別委員会

One Health 推進特別委員会（副委員長） 会長 高橋 徹

狂犬病予防体制整備委員会（委員長） 会長 高橋 徹
AMR 対策推進検討委員会（副委員長） 副会長 田村 豊

2) 職域別部会委員会

◎常設委員会

学術・教育・研究委員会 理事 滝口満喜
産業動物臨床・家畜共済委員会(部会長) 副会長 西川治彦
産業動物臨床・家畜共済委員会 理事 岡本真平
小動物臨床委員会 理事 高良広之
家畜衛生・公衆衛生委員会 理事 山口雅紀
動物福祉・適正管理対策委員会 黒川明美（札幌市）
総務委員会 専務理事 菅野一敏

◎個別委員会

獣医師生涯研修事業運営委員会 荻和宏明（北海道大学）
野生動物対策検討委員会 武田忠義（北海道）
女性獣医師支援対策検討委員会 岩村 舞（NOSAI ホーク）

6. 代議員会・理事会の開催について

1) 平成30年度（第6回）定時代議員会

日時：平成30年6月20日（水）

会場：北海道獣医師会館 会議室

議事

議案第1号 平成29年度事業報告および決算について
議案第2号 平成30年度事業計画および収支予算について
議案第3号 平成30年度会費等について
議案第4号 定款の変更について
議案第5号 会費規程の制定について
議案第6号 役員の報酬等に関する規程の改定について
議案第7号 平成30年度役員報酬について
議案第8号 役員の補欠選任について

2) 理事会

【第1回】

日時：平成30年5月22日（火）

会場：北海道獣医師会館 会議室

議事

〈報告事項〉

1. 職務執行状況報告について
2. 地区獣医師会総会の開催概要について
3. 日本獣医師会諸会議について
4. その他諸会議について

5. 傷病鳥獣等保護受託業務について

〈議決事項〉

1. 役員の補欠選任について
2. 平成 29 年度事業報告および決算の承認について
3. 平成 29 年度決算監査結果について
4. 平成 30 年度会費等について
5. 平成 30 年度役員報酬について
6. 委託契約の変更について
7. 代議員会における書面等による議決権の行使について

〈協議事項〉

1. 各分会委員、北獣会誌編集委員、学会役員の交代について
2. 今後の予定
3. その他

【第 2 回】

日 時：平成 30 年 6 月 20 日（水）

会 場：ホテルヤマチ

議 事

〈報告事項〉

1. 北海道獣医師会諸会議について
2. 日本獣医師会諸会議について
3. 狂犬病予防注射事業に係る事故の発生状況について
4. 北海道医師会との連携シンポジウム開催報告について

〈議決事項〉

1. 支部事務局長の承認について
2. 第 69 回北海道獣医師会大会提案事項について
3. 北海道獣医師会 70 周年記念功労者表彰要領制定について

〈協議事項〉

1. 北海道獣医師会 70 周年記念表彰について
2. 平成 30 年度（第 6 回）定時代議員会の開催について
3. 平成 30 年度北海道獣医師大会・地区学会の開催について
4. 2019 年度（第 7 回）定時代議員会の開催について
5. 2019 年度以降の大会・地区学会の開催地について
6. 賛助会員・寄附金の募集について
7. 今後の予定

【第 3 回】

日 時：平成 30 年 12 月 12 日（水）

会 場：北海道獣医師会館 会議室

議 事

<報告事項>

1. 11 月末職務執行状況について
2. 中間監査の結果について
3. 北海道獣医師会諸会議について
4. 日本獣医師会諸会議について
5. 平成 30 年北海道胆振東部地震について
6. 第 69 回北海道獣医師大会・地区学会・記念式典・祝賀会について
7. 平成 30 年度狂犬病予防注射事故発生状況と対応について

<議決事項>

1. 諸規程の改定について
2. 2019 年度北海道獣医師大会・地区学会の開催について
3. 役員報酬等の執行について

<協議事項>

1. 2019 年度事業計画について
2. 獣医師法 22 条届け出について
3. 消費税改正に伴う狂犬病予防注射料金について
4. 狂犬病予防注射事務手数料について
5. 2019 年度代議員会の開催日程について
6. 2020 年度以降の北海道獣医師大会・地区学会の開催地について
7. 災害時動物救護対策委員会（仮称）の設立に向けて
8. 2019 年度事業について
9. その他

【第 4 回】

日 時：平成 31 年 3 月 15 日（金）

会 場：会 場：北海道獣医師会館 会議室

議 事

<報告事項>

1. 2 月末職務執行状況について
2. 北海道獣医師会諸会議について
3. 日本獣医師会諸会議について

<議決事項>

1. 2019 年度事業計画（案）について
2. 2019 年度収支予算（案）について
3. 平成 30 年北海道胆振東部地震の見舞金について
4. 消費税改正に伴う狂犬病予防注射料金・事務手数料について
5. 会館建設について
6. 災害時動物救護対策委員会（仮称）の設立について
7. 役員候補者推薦管理委員会の設置と役員選任日程について

8. 支部事務局長の変更について

<協議事項>

1. 北海道獣医師会 2019 年度（第 7 回）定時代議員会の開催について
2. 2019 年度以降の北海道獣医師大会・地区学会の開催地について
3. 2019 年度事業について
4. その他

3) 監 査

平成 29 年度決算監査	平成 30 年 5 月 16 日（水）	北獣会館
平成 30 年度中間監査	平成 30 年 11 月 21 日（水）	〃

4) 三役会議

第 1 回	平成 30 年 5 月 15 日（火）	北獣会館
第 2 回	平成 30 年 7 月 5 日（火）	〃
第 3 回	平成 30 年 10 月 26 日（金）	〃
第 4 回	平成 30 年 12 月 5 日（水）	〃
第 5 回	平成 31 年 1 月 21 日（月）	〃
第 6 回	平成 31 年 2 月 25 日（月）	〃

5) 事務局長会議等

事務担当者会議	平成 30 年 8 月 2 日（木）	北獣会館
役員・事務局長合同会議	平成 30 年 9 月 25 日（火）	〃
事務局長会議	平成 31 年 3 月 6 日（水）	〃

6) 各部会、委員会等

産業動物臨床部会	平成30 年 4 月11 日（水）	北獣会館
小動物臨床部会	平成30 年 4 月18 日（水）	〃
野生動物部会	平成30 年 6 月 5 日（火）	〃
北獣会誌編集委員会	平成30 年 4 月25 日（水）	〃
行政部会	平成30 年10 月26 日（金）	〃
第7回会館建設計画検討特別委員会	平成30 年 9 月 4 日（火）	〃
第8回会館建設計画検討特別委員会	平成31 年 1 月28 日（月）	〃

7) 学会関係

獣医学術地区学会幹事会	平成30 年 7 月12 日（木）	北獣会館
-------------	-------------------	------

7. 各種規程の制定および改定について

- ・第 6 回代議員会にて

定款の変更、会費規程の制定、役員の報酬等に関する規程の改定

- ・第3回理事会にて
旅費規程の改定、会館管理運用規程の改定
職員就業規則・職員給与規程・嘱託職員雇用規則・臨時職員雇用規則の改定

8. 北海道獣医師会館の建設について

北海道獣医師会館は、昭和53年に建設したもので、築後40年を経過しており、老朽化が進んでいるとともに、耐震性についても課題を抱えている。

平成26年度から理事会に会館建設計画検討特別委員会（以下、建設検討委員会）を設置し、本会創立80周年にあたる平成40年度を目処とした会館建替えに向けて協議してきた。平成30年9月（第7回）・平成31年1月（第8回）に建設検討委員会を開催し、会員の理解を深めることが最優先課題であるという結論に至った。各支部長・各地区獣医師会役員が会員に強く啓蒙し会員の理解を得なければ、建設資金調達計画等の検討を進めることは不可能である。平成31年3月の理事会で資金調達方法等の協議をしたが、新年度の理事会で引き続き検討していくこととなった。

9. 弁護士との顧問契約について

札幌市内で法律事務所を開設している橋本智弁護士（橋本智法律事務所 Tel：011-272-1056）と顧問契約を締結し、会員の法律的な事案に相談対応できる体制を継続している。

10. 広報活動

情報化社会に対応し、本会ホームページ等による広報活動の充実強化が求められている。会員への情報伝達の充実を図るとともに、一般市民を対象とした本会の活動紹介、動物病院の紹介等の充実強化に努めた。

II 事業報告

公益目的事業1：獣医学術の振興・普及並びに人材の育成を図る事業

獣医学および獣医療の最新の研究成果、優れた診療実績等を共有し、獣医師全体の技術向上を図り、それらの成果を社会に還元する。

1. 獣医学術北海道地区学会・北海道獣医師大会の開催

1) 獣医学術北海道地区学会の開催

- ①平成30年度獣医学術北海道地区学会は9月26・27日、北海道大学において開催した。
会員および会員外671名、来賓・関係機関等11名、合計682名の参加を得、石狩支部等道央3支部や学会幹事を中心とした会員の協力により整齊と運営された。
- ②26日午後、北海道医師会 長瀬清会長による市民公開シンポジウム「北海道の健康と医療の現状」が開催され、多くの先生方が参加された。
- ③一般の発表演題は産業動物獣医学会 99題、小動物獣医学会 39題、獣医公衆衛生学会 16題、合計154題がエントリーされた。
- ④両日の昼休みには、協賛会社の協力のもと6会場でランチョンセミナーを多彩な内容により実施した。
- ⑤各地区学会長賞・北海道獣医師会会長賞・奨励賞については、学会終了後に開催された審査会において慎重に審議され、次のとおり選定された。

【平成30年度北海道地区学会優秀発表演題と発表者】

1. 日本産業動物獣医学会（北海道）

【北海道地区学会長賞】

「*Mycoplasma bovis*におけるエンロフロキサシン耐性遺伝子の迅速検出技術の開発とその応用」

○権平 智 西 航司 臼井 優 田村 豊 樋口豪紀
酪農大衛生・環境学

「牝馬の改良型 Pouret 法による外陰形成術について」

○井上裕士
イノウエ・ホース・クリニック

「馬の難産とその予後」

○野村脩
NOSAI みなみ

「診断麻酔を用いたサラブレッド種後期育成馬の跛行診断に関する回顧的調査」

○多田健一郎 小林光紀 安藤邦英 日高修平
軽種馬育成調教センター(BTC)

【北海道獣医師会会長賞】

「牛白血病ウイルス感染牛との同居飼育および吸血昆虫による実験的ウイルス伝播」

○小原潤子 平野佑気
道総研畜試

「生乳中 P4 濃度に基づく乳牛の分娩後卵巣周期回復日と繁殖成績および乳量・乳成分との関連性」

○古山敬祐¹⁾ 小山 毅¹⁾ 窪 友瑛¹⁾ 杉本昌仁¹⁾ 横田 修²⁾ 大和田勇人³⁾

1) 道総研酪農試 2) 家畜診療所エフサイド 3) 東京理科大経営工学

【奨励賞】

「乳汁由来 *Streptococcus uberis* の PCR 法を用いた新規検査技術の構築とその応用」

○桑原あゆみ¹⁾ 西 航司¹⁾ 権平 智¹⁾ 田村 豊²⁾ 樋口豪紀¹⁾

1) 酪農大衛生・環境学 2) 酪農大動物薬教育研究センター

「牛乳房炎乳由来 *Staphylococcus aureus* 耐性菌に対するアカエゾマツ精油の抗菌活性」

○友利愛子¹⁾ 横田 博²⁾ 西 康暢¹⁾ 大塚まりな¹⁾ 杉山美恵子³⁾

豊田洋治³⁾ 伊藤隆晶⁴⁾ 鈴木一由¹⁾

1) 酪農大生産動物医療学 2) Pine Grace 3) NOSAI えひめ 4) NOSAI 愛知

2. 日本小動物獣医学会 (北海道)

【北海道地区学会長賞】

「蛋白喪失性腸症の犬 33 例からの腸リンパ管拡張症の診断と治療に関する考察」

○永田矩之¹⁾ 大田 寛¹⁾ 横山 望²⁾ ニサ ホイルン¹⁾ 佐々木 東¹⁾

森下啓太郎³⁾ 滝口満喜¹⁾

1) 北大獣医内科学 2) 東大附属動物医療センター 3) 北大附属動物病院

「本態性高ナトリウム血症を伴った分葉型全前脳胞症の猫の 1 症例」

○新坊弦也^{1, 2)} 田川道人¹⁾ 柳川将志³⁾ 宮原和郎¹⁾

1) 帯畜大動物医療センター 2) 北大附属動物病院 3) 帯畜大臨床獣医学

【北海道獣医師会長賞】

「小脳および頸髄に線維軟骨塞栓症を発症した猫の 1 例」

○立石耕右¹⁾ 松野正行¹⁾ 富永牧子¹⁾ 中尾幸恵¹⁾ 稗田寛子¹⁾

岡田一喜²⁾ 賀川由美子²⁾ 柄本浩一¹⁾

1) えのもと動物病院 2) ノースラボ

「てんかん重積後に大脳皮質層状壊死の発生が疑われた犬 1 症例」

○堀 あい¹⁾ 三好健二郎^{1, 2)} 華園 究^{1, 2)} 中出哲也^{1, 2)}

1) 酪農大附属動物医療センター 2) 酪農大伴侶動物医療学

【奨励賞】

「犬の非再生性免疫介在性貧血の臨床病理所見と治療反応に関する回顧的研究」

○岩永優斗¹⁾ 森下啓太郎²⁾ 細谷謙次²⁾ 大菅辰幸²⁾ 佐々木 東³⁾

大田 寛³⁾ 滝口満喜³⁾

1) 北大獣医先端獣医療学 2) 北大附属動物病院 3) 北大獣医内科学

「移行上皮癌に対する膀胱尿道全摘出後に尿管－乳頭造瘻術を実施した犬の 2 例」

○井上 公¹⁾ 谷川慶一¹⁾ 河野博紀²⁾ 酒井俊和¹⁾ 廉澤 剛¹⁾

1) 酪農大伴侶動物医療学 2) 酪農大附属動物医療センター

3. 日本獣医公衆衛生学会（北海道）

【北海道地区学会賞】

「北海道内で見つかった高齢黒毛和種の非定型白血病」

○神谷可菜¹⁾ 清水俊一¹⁾ 齋藤麻矢¹⁾ 本郷健雄¹⁾ 松田佳奈²⁾ 岡本 実^{2,3)}

1) 早来食肉衛研 2) 酪農大感染・病理学 3) 酪農大附属動物医療センター

「2017年度ワシ収容にて突出した原因—列車衝突事故について」

○小笠原浩平 渡辺有希子 中村鈴夏 堤 百合香 田中瑛理香

吉田恵人 齊藤慶輔

猛禽類医学研究所

【北海道獣医師会長賞】

「と畜場における豚の腸腺腫症とサルモネラ属菌の保菌状況」

○岡 柚芽子¹⁾ 大野博士¹⁾ 黒田裕介¹⁾ 藤吉英邦¹⁾

竹下日出夫¹⁾ 池田徹也²⁾

1) 八雲食肉衛検 2) 道衛研

【奨励賞】

「市販食品における *Clostridioides difficile* 汚染状況とヒトへの伝播の可能性」

○須藤 翼¹⁾ 臼井 優¹⁾ 川端楓実¹⁾ 丸子愛加¹⁾

品川雅明²⁾ 高橋 聡³⁾ 田村 豊¹⁾

1) 酪農大衛生・環境学 2) 札医大附属病院検査部

3) 札医大感染制御・臨床検査医学

2) 第69回北海道獣医師大会の開催

①第69回北海道獣医師大会は9月26日（水）京王プラザホテル札幌を会場に、日本獣医師会蔵内勇夫会長・境政人専務理事、日本獣医師連盟北村直人委員長他多数の来賓を迎え盛会裡に開催された。

②大会では、小動物臨床・野生動物部会提案として「人獣共通感染症としてのダニ媒介性疾患の医学界との連携強化推進について」の提案を満場一致で決議した。

③大会に引き続き、前年度地区学会優秀発表表彰、北獣会誌投稿優秀論文表彰、狂犬病予防事業顕彰および学位（博士号）取得者顕彰を行った。狂犬病予防事業顕彰者および学位取得顕彰者は次のとおり。

狂犬病予防事業顕彰者

松本 隆（石狩支部） 高橋 宣充（石狩支部）

星川 清美（石狩支部） 那須野豊彦（胆振支部）

久田 孝雄（空知支部） 中田千佳夫（根室支部）

学位（博士）取得顕彰者

安藤達哉 酪農学園大学（取得時：みなみ北海道農業共済組合）

論文題目 「ホルスタイン牛群におけるボルナ病ウイルスの浸潤状況と感染様式ならびに清浄化対策に関する研究」

宮越大輔　　みなみ北海道農業共済組合
論文題目　「サラブレッド雌馬の生産性向上のための交配から妊娠までの
繁殖管理の改善に関する研究」
足立 泰基　　北海道早来食肉衛生検査所
論文題目　「と畜検査データの時系列分析に関する研究」

3) 第30回世界牛病学会 2018 札幌の開催について

2018年8月28日(火)から9月1日(土)まで、札幌コンベンションセンターにおいて第30回世界牛病学会 2018 札幌(XXX World Buiatrics Congress 2018 Sapporo; WBC2018 札幌)が開催されました。WBC2018 札幌には、66カ国地域から1,481名の登録参加者、約100名の招待参加者(教育講演、受賞者、理事等)、約300名の展示関係者(スポンサー、企業、団体等)、約2,000名が参集し、日本からの登録参加者が657名と最多で、アメリカ、韓国、オーストラリア、ドイツ、中国の順に参加者が多かった。学生は約150名で、日本人学生も多数参加した。一般発表には755題の申込みがあり、口頭発表333題、ポスター発表322題でした。教育講演は23題、スポンサーシンポジウム4企画、ランチョンセミナー3回、9つのワークショップ等が会期中に実施された。

2. 北海道獣医師会雑誌の発行について

獣医学術の振興・普及および諸行事の案内、活動報告等の情報提供の媒体として北海道獣医師会雑誌を毎月定期に発刊した(第62巻第4号~12号および第63巻第1号~第3号)。また、会誌編集委員会において、前年度本会誌に掲載した学術論文から優秀なものとして次の3編を選定し、第69回北海道獣医師大会において顕彰した。

平成29年度北海道獣医師会雑誌優秀論文表彰

・産業動物獣医学部門

「サラブレッド1歳馬の大腿骨遠位内側顆X線スクリーニング検査における
有所見率とその後の跛行発症との相関」

○妙中友美 川崎洋史 津田朋紀 大久保正人

竹田敏弘 長嶺夏子 中島文彦

ノーザンファーム

「2014年の北海道における豚流行性下痢ウイルスの分子疫学的解析」

○川内京子¹⁾ 小岸憲正²⁾ 横田高志³⁾

1)十勝家保 2)空知家保 3)釧路家保

・野生動物部門

「宗谷管内におけるエゾシカの病原体保有状況調査」

○藤吉聡^{1)*} 尾宇江康啓¹⁾

1)宗谷家保 *現所属:JA全農ET研究所

3. 国際交流について

本会は相互の獣医学術の向上と交流を深め、互いに発展することを目的として、韓国の慶尚北道獣医師会と姉妹提携を結んでいる。昭和54年の訪韓以降、これまで数年間隔でそれぞれ6回訪問しあって交流してきた。平成25年に本会が韓国慶尚北道を訪問しており、平成30年度は創立70周年記念にあたり招聘の準備をしていたが、悪性感染症発生のため見送った。

4. 技術向上に係る講習会、研修会の開催について

本部主催として小動物講習会、獣医公衆衛生講習会、管理獣医師講習会および野生鳥獣救護技術講習会を開催するとともに、支部主催により産業動物・小動物ブロック講習会、新技術講習会を実施した。また、地区獣医師会や関係団体の主催する講習会、研修会等に後援・協賛し支援した。

開催状況は添付諸表資料3のとおり。

公益目的事業2：人と動物が共生する豊かで健全な社会の発展に貢献する事業

人と動物の共通感染症の予防等、公衆衛生や家畜の伝染病予防等の家畜衛生に関する事業並びに動物の愛護・福祉の増進・野生動物の保護に関する事業を推進し、人と動物が共生する豊かで健全な社会の発展に貢献する。

1. 狂犬病予防注射事業の推進について

1) 狂犬病予防注射事業は本会の主体となる公益目的事業として、各支部実施班の協力のもとで実施した。その注射頭数は171,363頭（前年比3,880頭減）、ここ数年減少傾向が続いている（支部別注射頭数は添付諸表資料4のとおり）。

これに対応するため、小動物臨床部会、行政部会連携により狂犬病予防注射実施率向上対策を検討し、その活動の一つとして北海道・札幌市・動物愛護団体等と連携し、札幌地下歩行空間で狂犬病予防注射啓発イベントを開催した。

2) 狂犬病予防事業に係る事故について、ワクチンによる副反応事故についても、狂犬病予防注射事故対策要領に沿って補償することとしている。平成30年度は犬の事故は死亡4頭、回復61件の報告があった。犬の事故の多くはアナフィラキシー反応だが、犬の飼養者個々にチラシ等で注意喚起する等、きめ細かい対応がなされ、それぞれ支部実施班で適切に対応された。なお、死亡例は注射直後の発症であり、アナフィラキシーショックが疑われるが、剖検出来なかったことから確定には至っていない。

3) 狂犬病予防注射業務に永年にわたり尽力された6名の会員に対し、北海道獣医師会会長表彰を行い、その功績を称えた。

4) 現状の狂犬病ワクチンは1バイアル10ドース分であることから、バイアル開封後の日数経過等により廃棄を余儀なくされる。ワクチンメーカーに対し、1バイアル1ドース製品の開発、供給を要請している。なお、このことは日本獣医師会の狂犬病予防体制整備特別委員会でも検討され、同様の要請がなされている。

2. 動物愛護の推進について

- 1) 北海道から委託を受け実施している野生傷病鳥獣保護業務について、会員動物病院等の協力を得て 59 病院、251 頭羽（前年比 35 頭羽減）の傷病鳥獣の診療、救護費用を補填した。
- 2) 同じく北海道から委託を受け実施している所有者の判明しない犬猫などの診療、保護委託業務では 53 病院、370 頭（前年比 34 頭減）の保護・診療費用の一部を補填した。
札幌市（札幌市小動物獣医師会が受託）、函館市、旭川市においても、それぞれ市からの受託により同事業を実施し、札幌市 13 病院 31 頭、函館市 2 病院（治療犬猫なし）、旭川市 5 病院 10 頭の保護治療を行った。

3. 公開講座等の開催について

- 1) 北海道医師会との学術連携シンポジウム
高病原性鳥インフルエンザをはじめ多くの人と動物の共通感染症の流行制御への関心や食品の安全性確保に関する意識が高まる中、医師と獣医師が緊密に連携し、安全で安心な社会を構築することが求められている。
このような状況を受け、学術協力を推進する旨の協定書締結に基づき、4 月 15 日「ダニ媒介性脳炎」をテーマに連携シンポジウム等を開催した。
- 2) 野生動物部会の協力を得て、野性傷病鳥獣の診療技術向上のため技術講習会を札幌市（円山動物園）、釧路市（釧路市生涯学習センター）において開催した。札幌市（円山動物園）では、一般市民を対象にヒグマをテーマにした野生動物講演会を開催した。
- 3) 8 月に札幌市内のデパートにて開催された小学生を対象にした仕事体験イベントの「夏休み！こども体験アカデミー」に出展し、200 名近い親子が動物愛護や獣医師の仕事に対する理解を深めた。

収益事業 1：不動産賃貸事業

1. 所有地の貸付け

本会が発寒に所有する土地（670m²）を駐車場用地として（株）コラボに貸付けた。

2. 所有建物の貸付け

北海道獣医師会館の事務室スペースは北海道家畜畜産物衛生指導協会、さっぽろ獣医師会、札幌市小動物獣医師会、日本馬事協会北海道事務所に貸付けするとともに、会議室は各種会議、研修会等に貸付けを行った。

収益事業 2：共同購入事業

会員が業務上必要とする各種様式印刷物や診断薬を一括購入し、斡旋販売した。

その他事業1： 福利厚生事業

「福利厚生規程」にもとづき、病氣見舞金、弔慰金および生花をそれぞれ添付諸表資料5のとおり贈呈した。

その他事業2： 受託事業

1. 狂犬病予防注射済票交付事業

道内173市町村からの委託を受け、狂犬病予防注射に従事する会員が、市町村に代わり、狂犬病予防注射を受けた犬の飼養者に対し、狂犬病予防注射済票の交付を行った。

飼養者が居住していない市町村で狂犬病予防注射を受けた場合、注射実施者、責任者や各支部事務局の協力により、狂犬病予防注射済証を当該自治体に送付する事業を実施した。

2. 犬の登録及び鑑札交付事業

道内6市からの委託を受け、狂犬病予防注射に従事する会員が、狂犬病予防注射実施時に道内6市に代わり犬飼養者の便宜のため犬の登録受付及び鑑札の交付を行った。

3. 動物愛護週間における啓発活動

札幌市小動物獣医師会が主催する「人とペットの暮らし広場 2018」、江別市小動物開業獣医師会が主催する「2018 動物愛護フェスティバル in えべつ」、胆振獣医師会が主催する「胆振動物愛護フェスティバル」、その他各地区獣医師会で振興局との共催による動物愛護事業等の行事に協賛するとともに、日本獣医師会が主催する「2018 動物感謝デー in Japan “World Veterinary Day”」に協賛し、二子玉川ライズおよびイツコムホールで動物愛護思想の普及啓発に努めた。

4. 海鳥等保護対策事業

天売島において野良猫が増加し、この影響で希少な海鳥が激減していた。この海鳥保護のため、羽幌町等からの委託を受け、不妊去勢手術、馴化、譲渡等で野良猫を減少させる事業を実施し、環境省・道庁・羽幌町・本会・北海DOぶつネット等による「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会（会長：高橋 徹北海道獣医師会会長）を立ち上げ関係機関連携のもとに活動の成果が見られ、野生猫は減少して海鳥は増加している。

70周年記念事業

昨年は北海道獣医師会70周年を迎えて、記念事業と表彰事業を行った。当会の事業発展に貢献された諸氏に表彰状と感謝状を贈呈した。記念式典では多くの来賓の祝辞と祝賀会ではご多忙の中、北海道知事をはじめ国会議員等の参加があった。80周年に向けて新たな出発の年となり、我が国獣医師会をリードしていきたい。